

花はす公園と杣山トレッキングの準備記録

花蓮公園は、ちょうど見ごろです。お花好きの方はぜひご参加ください。また、杣山は初めて登りましたが、思っていたより急な登りで、山容・樹林・眺望も素晴らしく、変化に富んだ気持ち良いトレッキングコースでした。山城はいくつか挑戦しましたが、杣山城跡は、素晴らしい自然の要塞で、「凄いね。素晴らしいね・・・」と感動しながら楽しみました。現地の案内板の説明などを読み、想像以上の歴史に触れ、とても勉強になりました。インターネットなどでさらに知識を深めていきたいと思えます。皆さまのご参加をお待ちしています。

◆花はす公園の状況:とてもきれいです。ゆっくり散策し楽しみましょう。



◆杣山の歴史

※国指定史跡 杣山城跡 : 山城は、鎌倉時代末期、瓜生保の父・衛が越後の三島郡瓜生村から、この地に移り築城したと言われています。以来、金ヶ崎城・鉢伏・木の芽峠・燧などの諸城とともに越前の玄関となりました。

※杣山城跡 492m : かつては、北の比叡山と呼ばれ、南北朝時代には、南朝方の拠点になるなど、多くの戦乱の場所になった所です。北陸自動車道を見下ろす城跡は、鎌倉時代から瓜生氏の居城となり、南朝方の忠臣であった瓜生氏の死後は、新田義貞が立て籠もりました。一帯には、けい掛岩・姫穴・殿池など当時の面影がしのばれる場所が点在しています。

※犬戻・駒返: 本丸にたいする防御物で、犬も駒も通ることができず引き返したところから、犬戻・駒戻の名が生まれました。

※堀切跡: 頂上まで攻め登る敵に対する防御物です。馬も通ることのないように深く・広く張り切ったのです。

※けい掛岩: 頂上近くの南に面した大絶壁があります。瓜生保戦死の際、その奥方および仕えてた侍女は、この岩にけいを掛け飛び降り死んだといわれています。

※殿池: 源頼親及び瓜生保の在城のとき、山中唯一の飲料水として、周囲が乾燥しても枯れず、冬期であっても増水せず、神秘的な池と称されています。

※姫穴: 殿池より下ること 300m 谷間の一大絶壁にある高さ 5.5m、間口 1.5m の岩穴があります。ここに、新田義貞の夫人に勾当内侍が一時身を隠した所と言われています。

※居館跡と土塁: 一の城戸より中を御屋敷と言ひ、瓜生家一門の居城でした。背に杣山の絶壁を負ひ、居館跡には好地です。現在、その居館跡の土塁がそのまま残っています。

※六観音: 極楽浄土に導いてくださる六体の観音さま



聖観音



千手観音



六臂の馬頭観音



不空羂索観音



十一面観音



如意輪観音

しょうかんのん せんじゅかんのん ろっぴのぼとうかんのん ふくうけんじゃくかんのん

◆トレッキングコースの様子



変化の富んだコース 植生も豊富

尾根出会い

堀切

眺望を楽しみながら



変化に富んだコース

大絶壁

犬返・駒絶壁

前方、杣山山頂



杣山山頂 三等三角点

下山コース 1

2



ケイ掛岩

大絶壁



西屋敷跡 1

2



殿池

姫穴

◆自然観察



広大な蓮畑で見ごろです



ヤブデマリ



ハグロソウ



キンミズヒキ



リョウブ



イチヤクソウ



トンボソウ



ノリウツギ



ノギラン



ナツハゼの実



アクシバの実



タカノツメの実



ヒヨドリバナ



ブナの実



ヤマジノホトトギス



アブラチャン



ケンポナシ



トチバニンジン



トラノオ



エゴノキ